

東京新聞

2022年（令和4年）10月14日（金）

富津のキミカ新社屋 世界水準の研究環境

アルギン酸メーカーのキミカ（東京都中央区）が創業八十周年事業として富津市大堀に建設していた新社屋「キミカ本館」が、倉庫二棟とともに完成した。

同社は、加工食品、医薬



キミカの新社屋＝富津市大堀で（京葉銀行提供）

品などに活用されるアルギン酸の工業的生産に日本で初めて成功した国内唯一のアルギン酸専門メーカーで、国内シェアは90%以上。アルギン酸の原料となる海藻はチリで調達し、海岸に漂着した海藻を現地の漁業者から買い取ること

で、漁業者の生活水準の向上と海藻の乱獲抑制、海洋資源の保護にも貢献している。

新社屋は鉄骨・鉄筋コンクリート二階建てで、延べ約三千九百平方メートル。オフィス、研究開発、品質検査、福利厚生などの機能を集約し、オフィスエリアは従来比で三倍、研究エリアは同四倍に拡充した。

研究エリアは、オープンな理化学試験エリアに加えて、機器分析室や微生物試験室、安定性モニタリング室などを機能別に区分けして試験環境を整え、世界水準の研究環境となった。

また、輻射熱の特性（熱移動の原理）を生かした「次世代型輻射式空調」を採用するなど、環境負荷の低減も図っている。

新社屋の建築資金として、京葉銀行が主導して千葉銀行、君津信用組合などととも約二十億円のシンジケートローン（協調融資）を実施。京葉銀行は「キミカのサステナビリティ（持続可能な）経営を後押しした。新オフィスは地域の雇用創出にもつながる」としている。

（山本哲正）